

第3学年 国語科学習指導案

指導者 長田 圭史

1 単元名 「後輩に伝える、もう一つの『故郷』」

2 言語活動とその特徴

本単元では、文章全体に目を向けながら、論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を考えて読むために、「後輩に伝える、もう一つの『故郷』」という単元を貫く言語活動を設定する。この言語活動で生徒は、後輩に「故郷」という作品の見どころを伝え、来年度楽しんで学習をしてもらうという目的をもって読む。そのために、「故郷」を読む際、作品の語り手である主人公の視点で読みを進めるだけではなく、主人公以外の登場人物の視点になって読みを進める。視点を置き換えることで、文章全体に目を向ける必要性ができ、論理の展開の仕方、場面における登場人物の設定の仕方を考えることとなる。以上のことから、「文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。」(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、これまで「走れメロス」や「風の唄」といった文学的文章の学習において、文章全体に目を向けながら文章を読むという学習を行ってきた。その結果、文章全体に目を向けながら作品に表れたものの見方や考え方を捉えようとする姿勢は見受けられるようになった。しかし、場面読みが定着している生徒が多く、文章全体に目を向けながら作品に表れたものの見方や考え方を捉えることが十分にできるとは言えない。一方で、物語文に対する興味・関心は高く、登場人物の気持ちの変化を考えたり、書き手の意図を考えたりする活動には、意欲的に取り組むことができる。

(2) 教材観

「故郷」は、情景の描写によって社会状況や登場人物の心情を暗示したり、人物の外見の描写によって、精神の変化や時代状況の変化が捉えられるように表現が工夫されたりしている。効果的な回想シーンの挿入などもあり、文章全体を通してどのようなことが書いてあるのかを考えながら読むのに適している。また、長い文章ではあるが、登場人物の人間関係などは押さえやすく、中学3年生でも十分に内容を理解することができる。以上のことから、文章全体に目を向けながら、論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を考えて読む力を育てるのに適した教材と言える。

(3) 指導観

本単元では、「後輩に伝える、もう一つの『故郷』」という単元を貫く言語活動を設定する。学習では、後輩に「故郷」という作品を伝えるためにリーフレットを作成する。まず「故郷」がどのような作品であるのかを短い言葉で表現する。そうすることで、文章全体に目を向けられるようになる。また、語り手である主人公の視点での読みだけではなく、他の主人公の視点(ヤンおばさん・ルントーの視点)で読み、作品世界に入り込むことで、論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を考えられるようになる。その際、あらかじめ本文を6つに分けたシートを

6か所に配置し、グループごとに移動しながら読み、視点を変えて読んだことにより気付いたことをシートに自由記述する。語り手である「私」の視点をラウンド1。「ヤンおばさん」の視点での読みをラウンド2。「ルントー」の視点での読みをラウンド3とする。3つのラウンドを行うことで、全員が登場人物の視点を変えた読みを行い、話合いながら自由記述を行うことで、より多くの角度から作品を読み取ることができるようになる。このように、視点を変えて作品を読み、話合いながら読みを進めることで、文章全体に目を向けながら、論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を考えて読む力を育てることができるであろうと考える。

4 単元の目標

- 進んで文章を読み、課題について話し合ったり、読み取ったことをまとめたりしようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章全体に目を向けながら論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を考えて、読むことができる。
(読む能力)
- 心情や言動などを表す、多様な語句について理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・作品に興味を持ち、課題に対する自分の考えを述べたり、自分の考えをまとめたりしようとしている。	・文章全体との関わりから話の展開や人物の特徴を捉えながら読んでいる。	・心情や言動などを表す様々な語句について、どのような意味を持っているかを理解している。

6 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	評価規準
一	1	単元の見通しを持ち、全文を読む。	・作品に興味を持ち、文章を読んでいる。(閲)
	2	作者、成立、時代背景などを調べ、作品に込められた作者の思いを想像し、リーフレットにまとめる。	・歴史的背景などを踏まえ、作者の思いをまとめている。(読)
二	1	根拠を明らかにしながら、人物像を押さえ る。	・心情や言動を表す言葉の意味を理解し、描写などに着目している。(言)
	2	グループを作り、「私」の視点で『故郷』を読み、話の展開や人物の特徴などを捉える。	・文章全体の内容や展開と照らし合わせて読んでいる。(読)
	3	グループを作り、「ヤンおばさん」の視点で『故郷』を読み、話の展開や人物の特徴などをとらえる。	・文章全体の内容や展開と照らし合わせて読んでいる。(読)
	④	グループを作り、「ルントー」の視点で『故郷』を読み、話の展開や人物の特徴などを捉える。	・文章全体の内容や展開と照らし合わせて読んでいる。(読)
三	1	「私」以外の視点で読み、気付いたことなどを、「もう一つの故郷」として、リーフレットにまとめる。	・文章全体の内容や展開と照らし合わせて、気付いたことや感じたことをまとめている。(読)
	2	「故郷」に表れたものの見方や考え方を、後輩に伝えるために、リーフレットにまとめ	・「故郷」に表れたものの見方や考え方を自分の言葉でまとめている。(読)

		る。	
--	--	----	--

7 本時の学習

(1) 目標

ルントーの視点で「故郷」を読み、話の展開や登場人物の特徴などを捉えながら、読むことができる。

(2) 準備・資料

書き込み用シート、リーフレット

(3) 展開

学習活動及び内容

1 前時までの学習内容と、本時の目標を確認する。

ルントーの視点で「故郷」を読み、「もう一つの『故郷』」の世界を考えよう。

2 グループを作り、ルントーの視点で「故郷」を読み、話し合う。

- ルントーの視点で読みを進め、セリフや描写に着目し、そのときどのような思いや考えを抱いていたのかを話し合いながら、書き込み用シートにメモを書く。
- 7分で一つのまとまりについて話合い、順次、場所を移動して、それぞれのまとまりについて話し合いを進める。

5 の 場 面
を 話 し 合
う 場

3 の 場 面
を 話 し 合
う 場

1 の 場 面
を 話 し 合
う 場

6 の 場 面
を 話 し 合
う 場

4 の 場 面
を 話 し 合
う 場

2 の 場 面
を 話 し 合
う 場

3 話合いを通して、「ルントー」に対する印象や、本時までに考えた人物像に付け加えることなどをまとめること。

ルントーは、「卑屈」「人見知り」である。

↓
「私」のことを「おまえ」と呼んでいたことから、ルントーも私に会いたがっていた。

↓
「だんな様！」と呼んでしまったのは、何か理由があるのではないか？

4 次時の学習課題を確認する。

指導上の留意点・評価

○書き込み用シートを見返し、ヤンおばさんの視点で読んだときに、ヤンおばさんの新たな一面に気付いたことを確認することで、ルントーの視点になることで新しい発見があることを想起させる。

○グループはA～Fの6グループを作り、積極的に意見の交換ができるように促す。

○メモを書き込んでいく際は、赤のペンで書き込み、ルントーとヤンおばさんの区別ができるようにする。

○ルントーの視点で読む際は、文章全体に目を向け、ルントーの思いや考えの根拠を明らかにするように指示する。

○描写や「私」のセリフに対する思いなどを中心に、ルントーの視点ではどのようにその描写やセリフが見えるのかを考えるように促す。

○話合いで出た意見は小さなものでもメモを残したり、本文中の言葉を線で結んだりして、思考の過程を残す工夫を行うように伝える。

○本時までに考えた人物像は、私の視点から考えたものであることを確認し、ルントーの視点で人物像を考えたときに、どのような変化が表れたのかを書くように指示する。

○作品において、ルントーが話の展開の中でどのような役割を担っているのかを考えるように指示する。

○席の近くの友達と相談しても良いことを告げ、様々なものの見方や考え方につれられるようにする。

〔記〕文章全体との関わりから、話の展開や登場人物の特徴などを捉えながら読んでいる。

(〔読〕観察・ノート)

○次時では、リーフレットの完成を目指すことを知らせる。